

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月19日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4671000190号		
法人名	医療法人 全隆会		
事業所名	医療法人 全隆会 指宿みどり館		
所在地	鹿児島県 指宿市 東方 7521番地 3号 (電話) 0993-24-5161		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年6月16日	評価確定日	平成21年7月4日

【情報提供票より】(平成 21年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人 非常勤 2人	常勤換算 7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均日額)	840 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 830 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	4名	要介護2	3名
要介護3	1名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 88.2歳	最低 78歳	最高 98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	指宿竹元病院・まつもと一広歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

病院や介護老人保健施設などが併設されており、研修や勉強会など協力関係ができており、職員のサービスの質も確保されている。離職者が少なく、入居者と馴染みの関係が保たれている。また、調理や洗濯物などを一緒にする等家庭的で、入居者と職員が仲良く過ごしている。温泉地にあるので、入居者はホームで温泉を楽しむことができる。好物の料理を提供したり、さりげなく花を飾るなどの職員の対応は、利用者との信頼関係を深め、豊かな人間関係の交流がなされている。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はなかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は評価の意義や活用方法について理解している。スタッフ会議等でサービスについて見直し・改善策を話し合い、評価をサービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 定期的開催し、ホームの状況報告の他、地域の情報を知る機会にもなっている。家族とホーム間の理解や地域の協力関係につながり、委員からの意見やアドバイスがサービスの質向上に活かされている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 入居時に相談・苦情窓口について説明している。面会時には不満や意見を聞くよう心がけ、家族会や運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、意見や不満を聞く機会を設けている。意見は全員で話し合い、運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩時の挨拶や地域のリサイクル回収など、協力関係の向上に努めている。夏祭りや敬老運動会への参加、中学生の体験学習の受け入れなどを通して、地域住民との交流を進めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を考え、一人ひとりの入居者を尊重し、その人らしく暮らしつづけることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールの見やすいところに掲示し、定例会議でも話し合い、全員で共有し、理念の実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の挨拶や地域のリサイクル回収などの協力、夏祭り・敬老運動会への参加、中学生の体験学習の受け入れなどを通して地域住民との交流を進めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義や活用方法について、スタッフ会議等で、改善策を話し合い、自己評価をサービスの質向上に活かすよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催し、ホームの状況報告のほか、地域の情報を知る機会になっている。家族のホームへの理解や地域の協力関係などにつながり、委員からの意見やアドバイスが、サービスの質向上に活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは日頃より意見や情報交換を行い、地域包括支援センターとも連携している。近所のひとり暮らしの方の訪問など協力し、ともにサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話等で入居者の様子や健康状況等を報告したり、毎月の「みどり館便り」と個々の近況報告と金銭報告を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など家族からの意見や要望を聞くよう心がけている。年2回開催する家族会や運営推進会議へ家族の参加を呼びかけ、意見や不満を表す機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者との馴染みの関係を保つことを重要視し、離職者はほとんどなく、馴染みの関係が保たれている。ホームにふさわしい人材を配置するなどダメージを防ぐ工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会は計画的に取り組み、研修報告を定例会議で行い研修内容を共有している。資格取得も積極的に勧め、職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会で同業者と情報交換や事例検討など実施する機会がある。他のホームの見学など進めており、活動を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、ホームの見学を勧め、管理者は病院や施設に訪問し面会をして、馴染みの関係づくりを工夫している。入居後は家族の協力をもらい、面会や自宅訪問など工夫しながら徐々に馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として尊重し、畑仕事や季節の料理・おやつ作りなど教えてもらっている。暮らしぶりから入居者と職員との信頼関係が構築されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの聞き取りのほか、日々のかかわりの中での表情や行動・言動などから、思いや意向を把握している。本人本位を念頭に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からの意見や要望を聞き、主治医の意見を参考に全職員で話し合い、利用者に即した介護計画を作成している。計画を個人台帳に貼付し、毎日のケアに活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、状態変化や希望があれば、カンファレンスを実施し、介護計画を見直している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がある。病院受診や通院介助・買い物・墓参りなどの外出支援など、家族と相談し必要に応じて柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。体調不良時は往診もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応方針について、文書化し家族からの同意書も作成している。本人・家族の希望があれば、話し合いを行い方針を共有し対応できるよう、マニュアルを作成している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の生活歴など理解し、言葉かけや対応など配慮している。採用時にはプライバシーの確保について研修を実施している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決めているが、入居者の状態などに合わせて、起床や入浴・食事時間など、一人ひとりのペースを尊重した支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた食材を利用しながら、調理や後片付けなど職員と一緒にしている。ソーメン流しなどにも出かけ、外食の機会も作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉なので毎日でも入浴できる。介助者は利用者の希望を聞いたり、温度などにも配慮して、入浴を楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事のしたくや洗濯物干し・たたみ、野菜作りなど役割を持っている。ボランティアによる茶道や遠足に出かけたりなどの楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望を聞き、散歩や買い物・ドライブなどに出かけ、気分転換や季節感を感じてもらえるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないで、見守りと所在確認を徹底し、ドアにチャイムを付けるなど工夫している。外出の折は同行して、自由なケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	定期的に昼夜想定で避難・誘導の訓練を行い、地域住民の協力をもらって実施している。災害に備えて、持ち出し袋や食糧など準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事量のチェックをしている。入居者の状態に合わせて、粥や刻み食・生野菜を避け温野菜を提供している。併設施設の栄養士に、栄養バランスのアドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所や食堂・和室が続いており、生活しやすくなっている。夏の日差しをやわらげるために、にが瓜を植えグリーンカーテンやよしずを利用するなど工夫している。障子の間仕切りや季節の花が飾られ、家庭的で居心地の良い空間を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に、木目込みの飾りがかけてある。入居者の使い慣れた寝具等を持ち込み、写真や人形など飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。